

2.6. 保護者対象の調査結果について（自由記述分析）

保護者調査においては、調査票の中にいくつかの自由記述欄を設けている。本章は、その自由記述の質問ごとに、いくつかの質的分析法を用いて分析を行っていく。

2.6.1. 相談機関・支援機関を利用しなかった理由について

問3-5「その他、相談機関・支援機関を利用しなかった理由があれば教えてください」に対する自由記述欄に記入された内容を確認する。相談機関や支援機関を利用しなかった理由を、7つのカテゴリーに分類した。また、回答文中に複数のカテゴリーが混合しているものについては、別途にまとめている。同様の記述は、(同○件)と記載する。特徴的な記述には下線を入れている。

1 周囲の無理解や社会的偏見（同6件）

相談すること自体がづらい、恥ずかしい、情報管理への不安といった周囲の無理解や距離の近さなどの地域特性、社会的偏見に起因する理由が語られている。

- ・利用を検討したり見学を相談すると、たくさんの人が関わると……や、あそこは○○だと、相談中の方に、言われたり阻止されるような感じがあった。
- ・離島でコミュニティが小さい為、情報が洩れる事が心配だった。
- ・（相談に伺う時間を作るのに）職場の理解を得るのも容易ではありません。
- ・地元の子ども食堂を運営している方々の中に、故意ではないかもしれないが勝手に漏らしてしまう人がいた。不登校までの経緯や、今までの経過を話す上で、漏らされたくない情報だけがある程度伏せて相談するというのは難しかった。
- ・地元の人には相談したくない。
- ・フリースクールなどは問い合わせても断られたので「利用したくても」の前の問題と思い、情報知っていても今いる場所（市町村）では通わせる気持ちにならないと思う（今後も…）
先日も TEL でお伝えはしてありますが…。

2 本人（家族）の身体的・心理的・経済的制約（同 42 件）

利用したくても本人（家族）のニーズと施設等が合わない（自宅から遠い、経済的負担が大きいなど）、自分のことを話すことに対する心理的不安や苦痛などもあり、そもそも外に出るための支援がまず必要（外に出られない、出たくない、人に会いたくない）といった理由となっている。

- ・子供が行きたがらない、フリースクール、放デイ、子ども食堂など、子供が利用する場所は本人が嫌がることも多い。（同 11 件）
- ・本人の気力がなく、外に出ることが難しい。
- ・子供自身がそういった機関に通えるような状態ではなかった。
- ・子供が誰か知らない人に会うと緊張し、動悸、吐き気などの症状が出るため。
- ・子供と同様、親も不安になっている時に何か所も回って辛い状況を話すのがとても苦痛だったから。同じ話を色んな所でする元気がなかった。
- ・制服を着なければいけない場所には行けなかった。
- ・（自治体名）には正式なフリースクールが無い。
- ・そもそも地域にないから。
- ・色々な場所に行って相談することはすごく疲れるからです。
- ・私自身がたくさん人がいる場所、知らない人にお話をすること自体がすごく苦痛ですごく緊張してしまい、パニックになってしまい何を話せばいいのか分からなくなるので利用しませんでした。
できれば相談機関全てにネットワークがあり繋がっていれば負担が少ないのではないかなと思います。
- ・仕事をしているので私 1 人では出向くこと時間を作ることが難しい。一ヶ所行くだけでたくさんの質問や面談があり 1 日では終わらない先が見えないなか、それを何ヶ所も回るのは精神的にも体力的にも親子ともきつい部分がある。今の本人を認めてあげたい。親の期待。学校に通ってもらいたい。いろいろな葛藤があり、一喜一憂する。

- ・ 病気で入院していた。
- ・ 自閉症も持っていたから。
- ・ 子ども食堂：感覚過敏(聴覚、味覚)があったため利用できなかった。
- ・ まず子供との面談がある所が多かったから。
- ・ 息子は起立性障害でめまいや腹痛があり、とにかく家から出るのが困難で、学校にいきたくないわけではありませんでした。なので、症状を治せる病院は行けても、それ以外は「頑張ってそこに行くくらいなら学校に行きたい」とのことなので行けてません。
- ・ フリースクールの利用も検討しましたが、自宅から遠いうえ、利用料がかかり家計への負担、他の兄弟への負担が大きいため断念した。
 ・ 人親です。仕事が月曜～土曜のため、休みを取りにくく相談に伺う時間を作るのが難しいで
 す。
- ・ フルタイムで仕事をしており、平日には休みがないため行けない
 (休むためには交代の人員をお願いしなければならず、迷惑をかけるため)
 (有給はコロナ(子どもと自分)、子供の入院等ですべて使ってしまった。)
- ・ 自宅から遠い場所がほとんどで、保護者の送迎がなければ通えない施設ばかりの為、仕事の都合も毎日つけられず、利用できなかった。(同 11 件)
- ・ 不登校になった際、相談する事によりショックで動くことが出来なかった。
- ・ 不登校になっても支援する場所、支援いただける情報全て自分から動かなければならない事はわかるが、気力がでなかった。
- ・ 医療機関や療育センター、児童相談所は上の子のことでお世話になったため知ってはいるが、今現在、上の子2人と下の子もいろいろ問題を抱えており、母(私) 一人では手が足りない、経済的にも仕事をしなければならず、時間も取れない。

3 情報が得られない (同 23 件)

そもそも施設やサービスの正しい情報を知らない（具体的な支援についての情報がわかりにくい等）、どこに相談すればよいか分からないといったことが理由である。

- ・ たまにチラシを見かけたものでもネット検索しても、その実際の活動内容が掲載されておらず実態が不明で言葉だけの説明文では分かりにくいことから、相談するまでに至らなかった。
- ・ どのような支援をしてくれるのか全く不明。
- ・ 相談するのも親が非常にエネルギーがいる。紹介もない。親が情報を探さないと見つからない。それだけで非常に疲れる。
- ・ 相談できると知らなかった。
- ・ 何をしてもらえるかよく分からない。
- ・ 鹿児島に引越してきたばかりで、どのように利用すればいいのかわからなかった。
- ・ 介入の仕方がわからない。
- ・ 子ども食堂や児童相談所が不登校の相談・支援機関と思ってなかった。
その他の鹿児島市内の機関は遠すぎるし、よくわからない所もある。【前項「2」を含む】
どういう相談、話し合いが出来るのかわかりづらいから。
- ・ 存在自体を知らなかったことが大きい。知っていたとしても、鹿児島離島という場所になり、通うのは現実的ではない立地が多い。
- ・ 子どもが不登校になり、親子ともに家庭内全てが混乱しているタイミングで、どのような相談先等があるか、自分で情報をとって繋がることはなかなか難しいと理解してほしい。
- ・ 不登校の最初は、学校に相談。その先にどのタイミングでどこに繋がるか。それは、予め知っていてこそ、保護者が選択することが出来る。今現在、不登校気配のない子どもの保護者に対しても、一律に周知していくことが大切だと思う。
- ・ そもそも、どの機関が、何をしているのか詳細が分からないので、利用したかどうかとも答えられません。フリースクールと市町村教育支援センターの違いが分からず、一応（カ）にし

ました。

- ・フリースクールや放課後等デイサービスなど興味はありますが、学校からも医療機関等からも何も情報がないので分かりません。
- ・子供の状態に合うのか、情報をとらなかった。(知らなかった)。
- ・いろいろありすぎて、まずどこに相談したらいいのか、とても迷ってしまった。それぞれの違いがよく分からなかった。
- ・どこの機関でどういう相談ができるのかが、分からないから。
- ・トラブルがキッカケでしたが（相談する）それまでは、娘がめんどくさい事を避けていると感じていたので、どうにか話などをして、宿題とかはしっかりできなくても、周りと同じ行動ができなくても、学校行くことは出来ていたので、相談しなかった。どう相談していいかも分からなかった。
- ・どこにどのように相談したら良いのか、どのように情報を得たらいいのかわからなかったです。
- ・もしかしたら、学校に行けるかもしれないと言う思いが根底にあったし、そもそも、どこに相談に行ってよいのか分からなかった。
- ・どの様な支援を受けられるか分からないから。
- ・どこに上記のような所に相談できます。と記載があったのでしょうか？知りませんでした。
- ・相談の方法、連絡先が分からない。厳しい事を言われそう。怖いイメージがする。
- ・近くになく、違いや利用の仕方が分からない【前項「2」を含む】。

4 本人や家族が抱える対人及び相談機関、支援機関への不信（同 19 件）

今の辛さに寄り添ってほしい、辛さや現状を理解する姿勢、初期対応や関係づくりのあり方など支援に対する期待とのズレ、専門的な資質の不足といった理由などの不信感が語られている。

- ・信用できない。
- ・親身さが無い。
- ・（固有名詞）などは、もっと、重度の方への比重が高く、程度が低いと相手にされない、もしくは何も出来ないことがないように対応される（今は、次女が学校へ行けていないが、次女よりも特性強めであったにも関わらず、長女の時、相談にうかがったが、そんな印象だった。）
- ・相談しても解決にはつながらずと思えなかった。親身になってもらえなかった。
- ・行政が設置する窓口は、本当に子どもに寄り添ってくれるのか疑念があったからです。教育委員会設置のものでさえ、残念ながらいまだに学校復帰を目的とした対応だと感じたため利用しませんでした。（自治体名）が設置する（施設名）は、利用開始にあたり、心得を記載したものを本人に読み上げさせる事を知り、断念しました。
- ・友だち関係に問題はなく体調がすぐれなくて登校できない状態。なので医療機関を受診しています。中学時代学校側が無理やり本人を SC へ会わせたことがあったが、本人は話さずイヤな記憶になってしまった。
- ・本人のこと、家族のこと、何故不登校になっているのか（当時）は分からないのみ。理由等を相談するたびに最初から何度も話をすることに親が疲れてしまった。
- ・以前スクールカウンセラーとの時間を持った時、専門性の低さを感じました。
ただの近所のおばちゃんの世間話で終わったように感じた。色々な思いを抱えて相談したい内容も考えて行ってみましたが、何の時間だったのか…と残念な気持ちで帰ったことを覚えています。支援者の質の向上も大切な課題かと思います。
その他の相談機関、支援機関と繋がる気力や考えが思いつかなかった。
- ・スクールカウンセラーは上の子どものみで利用していたが意味がなかった。
- ・1年生の時、登校できなくなり、スクールカウンセラーに相談したが、話を聞くだけで提案もなく無意味だと思った。

- ・児童相談所：学校に行かせないのは虐待だ。という声も聞いていたので、怖くて相談できなかった。
- ・カウンセラー・スタッフ、支援員さんによって、対応の仕方に個人差があると感じたり、そのような話を耳にする機会も多く、利用の前に選択肢から外れたものが多い。保護者や当事者の子供が、本当に何を求めているのか？どんなことに困っているのか？対応の頻度や時間、対応の仕方など、本当に適切なのか？考えて実施されている支援なのか、疑問に思うことが多くあり、親子共に疲弊することも多かった。
- ・子供はスクールカウンセラーを嫌がります。
体調が悪いと伝えても、精神的なものだろうと言われてるように聞こえるそうです。体調不良の原因が病院でもはっきりと分からないのに、病院を他にもすすめられ、そこで、問題がなければ、精神的な心の問題という内容だったとのこと。
- ・スクールカウンセラーは気の合う人の時と合わない人の時があった。
話をして子供が傷付いてしまうと感じた人がいた為、それ以来、慎重になった。
- ・学校からもらった名刺サイズのフリーダイヤルの番号に登校渋りをしだした頃に電話をかけた所、あまり親身の感じがなく、なかなか相談も難しいと思いました。(心がやや折れました。)
- ・学校(中学の時)の教頭先生に相談したが、対応してもらえず中学2年の3学期から3年生まで行かなくなった。
- ・学校の支援の先生に言葉で何でできないの！と責められた。
私一人の収入しかなく、朝から夜まで働くしかなく子供3人育てていくしかなかったため。
- ・記憶が曖昧ですが、私の子供の場合、発達障害等もなくただの不登校なので、相談を断られたことがあります。どこかは忘れましたが、不登校相談と記載されていても、大人しい我が子は断られ悲しい思いを何度か経験しています。
- ・SCもそうですが、相談する担当者が他人事のような印象があるから、不快になったことがある。

5 具体的な支援制度や支援解決策の不足（同 20 件）

具体的な支援解決策が共有されず相談しても何も変わらないし解決に至らない（と感じる）、サービスが少ない、制度利用が複雑といった理由が語られている。

- ・ 具体的な支援がなさそう。
- ・ 解決できると思わなかった。
- ・ スクールカウンセラーは、今の私には不要である。他の相談支援施設も、ニーズに合わない制度設計と人員と感じる。現状の学校に適応出来ない子のニーズをもう少し把握して、制度設計して欲しい(学校教員的思考の人が対応してもあまり意味が無い。)元々、私自身、精神保健福祉士の資格を持っているので、ある程度の情報を持っているので、このような感想だが、情報ない方にとっては有益な情報もあるかもしれない。ただ、待ち時間(数ヶ月待ち)のところもあるので、どうにか予算計上して欲しい。もしくは、人材育成など頑張ってもらいたい。ICT 活用のレクチャーの場面(情報提供の機会)があれば、欲しかったかもしれない。
- ・ 相談しても、解決方法があるわけじゃない。相談しても、こういう所があるとか、悩みを聞くだけで、具体的な解決策や親としてどう関わるか、どうすればよいかなどわからない。
- ・ 相談して変化があるか？に疑問があった。
- ・ 実態に合わないと思ったから。
- ・ 不登校の相談をしても、ただ様子を見たり話をしたりして、学校に行けるようにならないと思っていたから。
- ・ そこで相談して何か解決する糸口を見つけられる様に感じなかったから。
- ・ 医療機関の予約がいっぱいで実質受診できていない。
- ・ 子どもが小さい頃に子ども総合療育センターに予約をお願いしたら半年か1年くらい待ちで予約をしていましたが、その間に気持ちが変わって、直前にキャンセルしてしまった。
- ・ フリースクールは人数が多く、予約が取れないと聞いていたため。
- ・ 相談しても良い方向にいくとは思いません。
- ・ 子供と体験や見学に行った所もあるが、手続きがややこしかったり、料金も高くて、子供だ

けでは遠くて通えないところもあり、断念した。いっそのこと自分で作ろうかと思ったが場所や金銭面の負担があり、何も始められないままである。

- 学校、市教育委員会からは、相談機関について何も教えてくれなかったから。何も手立てはない。学校で対応するから登校させてほしいと言われた。
- 相談しても解決に至らないところばかり、全て受け身の対応ばかりだし、学校もその他機関も本当にこどもに向き合って行動してくれる人がいない【前項「4」を含む】
- 相談して何か変わりますか？何度も同じように話すことさえ苦しいと感じる本人が県や市は学校の味方と思うでしょう。
- 以前相談したが、全く参考にならなかった。何の解決にもならなかった。子供の救いにならなかった。
- 体調不良が戻らない限り、どこに相談しても変わらないと思った。本人（子供）があまり相談したがない。
- 何カ所か利用したが、同じような回答で具体的な方法を一緒に考えてくれる所は少なく、一から説明を何度もすると親の心も疲れてしまうため、なかなか別の所に... という気持ちになりにくい。また、継続して通うことを考えると親が仕事をしていると難しいと思う。
- 担任の先生から何の案内もなかった。先生はとても大変そうで、うちの子供は放置されてしまった。障害があるのでは、支援学級に移りたい、など、相談をしたが、様子をみましょう。と言ったまま時間が過ぎ、不登校になった。先生が忙しいのはわかるので、すぐに SC や SSW につないで欲しかった。切実にそう思う。

6 既存資源利用中（同 18 件）

ある程度の情報を取得しながら現在の支援の方向性に見通しを持てている状況があり、自分に合う既存の資源を利用できている、今後も利用したいと考えているといったことが理由となっている。

- ・(固有名詞)病院で良い先生に出会えているから。
- ・スクールソーシャルワーカーの先生が色々と相談にのって下さった上、担任の先生も定期的(週1)に声をかけに来て下さったので不安があまりなかったので。
- ・他で充分足りてたから。
- ・完全不登校ではなく週3～4回は行くこともあるため。
- ・学校側から居場所や今後の話をしているところだったため
- ・学校に行くことを考えて、段階的に利用を考えている。
スクールカウンセラーで放課後デイなどの話を聞いたので、次はそちらでというふうに。
- ・沢山の所に相談するよりも良いと思ったから。
- ・小規模校から中学へ入学し、人の多さや教室での密な空間を苦手と感じているが、友達関係は良好だったため、SSW 以外への相談は考えていない。
- ・利用した機関で十分な対応をいただいたので。本人の無理のない生活のためには十分でした。
- ・医療機関で POTS と診断されたため、午後から登校できる日も時々ある。
- ・フリースクールは検討しています。
- ・子供の精神状態が不安定な為、担当医と相談し、心の安定を最優先にしてきた。
- ・小学2年生～中学3年の現在まで同じスクールソーシャルワーカーさんなので安心しています。不登校ぎみになったのは、小学5年生夏休み明け9月中旬でした。また医療機関でのカウンセリングもしていたので他の利用機関を利用する必要がなかったです。

- ・学校に戻すことを最終目標にしている機関は子供にも、親にも負担がかかると思い、民間の居場所に通うことにした。
- ・発達グレーゾーンだった為、保育園在園中、就学相談等は利用しました。公立の選択肢、FSを検討した結果、今はFSに通っています。FSは自分で探しましたが、教育委員会も療育の支援者さんも大変好意的に受け止めて下さいました。
- ・放デイが子供に合っていて、子供が毎日充実した時間を過ごせていたから。
- ・小児科医、心理士から本人がしたいことを優先にしてください、と言われ特に勉強は考えていなかったから。
- ・医療機関を受診しているのでそれで良いと思った。

7 必要性を感じない及びその他（同8件）

状況から判断して子供への特別な対応の必要性を感じていないことが理由である。

- ・必要性を感じなかった。（同3件）
- ・教育委員会などの機関にそういう相談をするまで深刻ではないと捉えていたので。
- ・登校できなくなった初めの頃は、児童相談所やフリースクール等にTELして相談しましたが、本人の意志を尊重し、よく話し合って自宅での自宅を選ぶことにしました。
自分の子供が支援機関や相談所に行く程の状態ではないと様子を見ていた。少なくとも、自分の子供の事を信じていたかった。我が子は自分で学校に行かないことを選んでるように見えていたし、自分の考えで行かない考えを持っている気がしたので。
- ・校長先生に相談し、学校からの子供への対応がなされていたため。他への相談はあまり考えていなかった。
- ・教育委員会に相談・利用を考えたが、相談機関、周りに止められた。
- ・たいがいの機関は、小中学校対象で、高校生は利用できないと思っている。

8 上記「1」～「7」の複数を含む回答（同2件）

- ・幼稚園の年長さんで登園できなくなった時点で、（岡有名詞）を受診する事を決めていた。が、幼稚園の先生方はそこまでの異常を娘に対して抱かず、紹介を見合わせられていた。ただその当時、娘も知らない所に行きたがらず、受診は難しかった。親の問診だけで診断できるが、1人親で娘をみてくれる親族もおらず、親のみの受診もできなかった。【2、3 及び 4】
- ・相談・支援機関へのアクセスは電話のみに限られたが、娘と2人だけの家の中で電話で娘の困り事を口に出すのは娘にも聞かれるため難しかった。まずは、相談の概要を web サイトやメールで送れるとありがたいと思いました。【2】
- ・小学校に上がって、担任の先生の計らいで、授業をリモートで受ける事ができました。校長先生がリモート授業を出席日と教えてくださり、娘の肯定感が得られ感謝しています。療育センター受診もできて診断もつきました。【6】
- ・その間、校区外通学の申請を教育委員会にしました。学校、療育センター、教育委員会とそれぞれの機関に毎回生育歴から現状までを始めから説明しなければならないことには煩雑さを感じます。こちらもデジタル化して引継ぎや紹介がスムーズにされたらいいなと思いました。今後も他の機関にお世話になるとことを考えると、その点（説明を一からすること）は少し億劫です。【5】
- ・学校のスクールカウンセラーは、元校長先生のような方で、違うと感じた。心理士さんなどだったらしたと思う。【4】
- ・相談は、養護の先生によくしていた、お世話になった。【6】
- ・不登校の相談については、窓口が分かりづらいのが難点だと思う【3】。
- ・相談場所へ行ったら、最初から子供の経緯を細々説明しないといけないのがとても苦痛で、行くのが億劫であった。【4 及び 5】
- ・電話も、話をする気持ちになれない。電話は有料が多いし、負担が大きい。【2】
- ・SC は、学校で相談（面談）になるため、ショックが大きい親は学校内に入る事がとても辛いのに先生たちはそれに気が回らない。しかも面談室などは学校にはないので、話をしづらい。【5】

- ・学校の子供達が楽しくしてたり、作品展示等を目にするのもとても辛い。【2】
- ・学校に行かなくなった4月。どうすればいいのか分からず親もパニックになった。【3】
- ・スクールカウンセラーの先生も5月になってからスタートとのことで、今すぐにでも対応の仕方を相談したかったのに出来なかった。【4】
- ・うちは、行かなくなったはじめの時に、こどもを早く行かせようとしてしまった。もっと最初の時に休んでも大丈夫なんだと親も思えたらよかった。【2】
- ・今ではとても後悔してます。親の対応が1番ですが、はじめにどうすればよいかを、もっと相談できたらありがたいです。【3】

2.6.2. 相談機関・支援機関利用にあたっての意見や困りごとについて

問3-6「相談機関や支援機関を利用するにあたって、お子様からの意見、保護者として困ったことなど」に対する自由記述欄に記入された内容を確認する。相談・支援機関につながってもスムーズな利用に結びつかない場合や利用の継続が困難になることがある。困りごとの要因を、子ども、支援者、相談・支援機関に分けて確認する。また、はざまの苦しみ、不安について語られたことを別途まとめている。同様の記述は、(同○件)と記載する。特徴的な記述には下線を入れている。

1 子どもに起因する困りごと

1-1 相談・支援機関の利用拒否(同32件)

保護者の困りごととして最も多かった回答である。相談・支援機関につながっても、子どもの拒否により利用できないことがある。心身の不調、気持ちが向かない、周囲の目などが利用拒否の理由である。

1-1-1 心身の不調

心身の不調により、利用に結びつかない場合や、利用することにより心身の不調が発生し、継続利用が困難になる場合もある。

- ・不登校になって、メンタルが落ちている時に色々な相談機関へ連れて行くのは無理がある。
家から出るのも怖がっているのに、とてもじゃないが利用することができない。私だけで相

談にも行きましたが、子供の状態を見ているわけでもないのではなかなか解決への糸口はみつけれなかった。

- ・ 乗り物酔いもひどく本人は行きたがりません。誰かと話しをすることも、緊張で動悸がするため困難です。母親が長時間外出することも不安につながります。

1-1-2 気持ちが向かない

具体的な拒否の理由はなく、面倒、なんとなくといった、利用への気持ちが前向きにならない拒否のケースである。

- ・ どの利用も 面倒くさいと言って利用しなかったです。
- ・ 子どもの興味や相性。立地。保護者が仕事を休んだり、やめたりする必要がある。本人の気まぐれで行けたり、行けなかったり。気持ちが整わなくて通えないこともある。

1-1-3 周囲の目

相談支援の利用により、様々な人と関わり人の目に触れることになる。その際、知り合いと会うこと、会う可能性が利用を躊躇する理由となる。

- ・ 学校に行っている子が沢山来るので 皆の目が気になって行けない。
子ども食堂は大変魅力があるが、人の目が気になる。自宅近くのところは、人も多く、子どもは、人目を気にしてお弁当を取りに行くこともできないし、知り合いに会うことを思うと私も行けない。
- ・ スクールカウンセリングが学校で開催されていたことが、本人も親としても足が遠のいた。結果、親だけがスクールカウンセリングを受けに行った。クラスも他の児童や先生達にも会う所であり、また、教室のとなりの廊下側からも、誰がいるのか分かるようになっており、我が子もスクールカウンセリングを受けている教室に行くまでが辛い、人に見られる。先生と会うから嫌だと口にしていた。学校に行きたくない想いを持っている子に学校の教室で受けることが苦痛であるように感じた。

1-2 子どもの特性（同2件）

子どもの特性として、支援機関(者)に対しても、相談や思いを伝えることが困難である場合がある。また、人が苦手なため、知らない人とのかかわりが難しい場合もある。

- ・ 子どもが自分の思っている事を、人に言えない性格で、相談機関でも相談時間では腹を割って話せていないと感じています。親にも思っている事の半分くらいは、話せていないように感じています。
- ・ 人が苦手です。外に出ないわけではないですが、知らない人や数人でコミュニケーションをとることに対し、苦手意識がある様です。

2 支援者に起因する困りごと

支援者には、当事者に寄り添う真摯な対応が求められる。翻って、困りごととして、一方的な押し付けや当事者の気持ちに寄り添っていないかわりが困りごとになることが浮かび上がった。

2-1 一方的な対応（同4件）

支援者の考えの押し付けや配慮ない態度が、悪印象となり、その後の相談・利用を控える結果につながることもある。

- ・ 本人がいる前で話す内容や時間に配慮がない相手には、その後相談しにくいと感じた。
- ・ 教育委員会に相談しても、無理やりにでも登校させるような言い方だった。母子家庭を馬鹿にしているような感じで教育委員会には相談できない。
- ・ 小学2年生から不登校ですが、当初スクールカウンセラーには、母親のせいといわれ、保健センターでは、話もきかずに、「あたしだってそうだから、頑張りが足りない」などいわれ、スクールカウンセラーは結局学校に戻そう戻そうというのが見え見え、将来の不安をありながらやっていく姿勢にうんざりしました。あてにもならないし、共感、相手の立場になることもできない行政職員ばかりでした。
初めてスクールカウンセラーの方と面談した時、警察の人に尋問されているのか？と、とても嫌な気持ちにさせられました。子供も同じ気持ちになったそうです。それ以来スクールカウンセラーは受けたくないと思いました。
- ・ 学校の教員の配慮に欠ける発言のせいで、学校が怖い、先生が怖いと精神的に不安定になり、夜も寝むれずに何度も怖い！怖い！と起きる日々が続きました。校長は先生を守り、息子に原因があるかのような発言、進級の際には引継ぎもされておらず、新しい先生の他の生徒に対する怒鳴り声で全く行けなくなりました。やんちゃな子を律するために、静かな子が

犠牲になり、辛い思いをしている事を分かっていたみたいです。

2-2 聞かれること(同7件)

相談において、支援者が聞き取りを行うが、聞き方、タイミング、頻度などにより、苦痛となるケースが確認できた。

- ・状況を聞くばかり。支援者の理解、経験値が少ないからか求めているものとは違う。
- ・個人情報を詳しく聞いてこられた時があり相談しにくくなった。
- ・カウンセリングは探られていて嫌だ、ここに行っても良くならない、逆に疲れると子どもに言われた。
- ・「よく知りもしない人に自分の本心や事情を話したくない」と子どもは消極的でした。

2-3 話すつらさ(同5件)

子どもにとっても、保護者にとっても、不登校に至る要因や経緯を他者に話すことは痛みを伴う。話すことのつらさから利用を躊躇する、継続利用に結びつかないケースが確認できた。

- ・何処の機関に行っても辛い状況で、1からお話しするので精神的な負担が大きいです。子供の状況分かて貰う為には必要な事ですが、機関同士の横の繋がり、情報の共有が難しいなら、カウンセリングノートなどで共有できたら良かったと思います。お話しして、楽になる方、辛くなる方色々いると思います。
- ・公の機関は多数をひとくくりにして、個別の対応を継続して相談や解決策と一緒に考えてもらえないと思い、相談しづらかった。これまでの経過を話すことがつらくて利用できなかった。
- ・沢山相談機関があり、色々なところに相談して子供に合う方法を見つけられればいいのかもしれませんが、新しい相談機関を利用するたびに、子供のこれまでの事を話すのは自己嫌悪に陥り身を削られる思いです。
- ・子供から→知らない人と話したくない。これまでの経歴を話すことが嫌だ
- ・スクールカウンセラーの方に相談させていただいたのですが、学校へ行けなくなった理由など聞かれ、子供なりに重く感じたのか、帰りに涙ぐみもう嫌だと言ったので、その時以来相

談することが担任の先生方だけになりました。

2-4 傾聴の先の対応（同3件）

相談者の思いを傾聴することは、支援の基本であるが、保護者は、傾聴だけでなく子どもが次のステップに進むための支援を望む場合があることが確認できた。

- ・どこに行っても傾聴だけで、「この先こうすればこの子は大丈夫」と言ってくれる、頼れるよ
うな人はまずいないので、自分たちで調べるしかなくて、たいへん困った。
- ・不登校の相談は、不登校専門の相談先でないと、間違ったアドバイスをされて、親子関係悪化、夫婦関係悪化となった。自力でたどり着いた時には、相談＝ただ話を聞いてもらう所という印象になった。
- ・相談に行って親として出来る事のアドバイスを頂きたいのに、子供が元気に過ごして、本人のやる気が出るのを待ってくださいとよく言われます。それも良く分かるのですが、そこまでは出来ているのでステップアップに向けて動きたい。

3 相談・支援機関に起因する困りごと

相談・支援機関との条件があわず、適切な利用ができない場合がある。平日のみの対応だと、時間が合わずに相談に結びつかない場合がある。物理的距離が遠いことや、金銭的負担も困りごととして語られた。

3-1 情報提供不足(同19件)

情報の不足は、利用拒否に次ぐ困りごとである。相談・支援機関に関する情報不足、情報へのアクセス困難があることが分かった。また、支援機関の情報をまとめた冊子があると助かるといった意見があった。

- ・もっといろんな所に情報を置いてほしい。
- ・どこに相談すれば良いか分からず、ネットで調べても、我が子のケースはどこに持ってい
か分からず、相談機関のページを読んでみても敷居の高さを感じてしまった。突然の不登校で周りにも相談できず、子も親も不安しかなかった。

- ・学校へ行けなくなった親に、チェックシートのように、一冊の冊子で色んな機関の情報や、利用者の声等が、それを見るだけでどうしたら良いかが、分かると助かると思います。

3-2 相談の有効性への疑問（同3件）

相談により得られることについて、懐疑的であったり、相談時に今後につながる事が得られなかったケースが確認できた。

- ・本人は人に相談しても何も変わらないと思っている。
- ・アドバイスを頂いてその通りにしてみてもそれは理想事。大人が言う程自分の気持ちは良くはないと子供本人がこれまでの生活で感じている様子で。利用に拒絶的であり、貴重な支援の場があっても中々活用までたどり着けていない。
- ・SC、SSC は学校への復帰（択、話を聞いてくれるが何も現実には関係なかった。）

3-3 時間が合わない(同11件)

保護者は日中や平日に働いていることがあるため、相談・支援機関と時間が合わずに支援に結びつかない場合がある。また、外部の支援を得られなかったため、保護者の退職につながったケースもあることが分かった。

- ・平日しか開いてないこと。
- ・相談したくても、支援を受けたくても、仕事をしているので時間が合わず難しい。フリースクールも高額で行けなかった。低学年だと学習支援してもらえない。色々動いたが、仕事があると送迎すら難しいので結局は1人で留守番するしか選択肢がなかった。

3-4 物理的距離(同10件)

相談・支援機関へのアクセスに際して、物理的距離が遠いことが、保護者の負担となることが分かった。

- ・相談、支援機関が自宅から遠い
- ・利用する場所への交通手段が、保護者の負担になってしまう。
- ・フリースクールに通う場合の送迎が多少困難である。

3-5 支援機関の少なさ(同 3 件)

支援機関の数が不足していることが分かる意見があった。

- ・支援機関の場所が増えたらうれしい。

3-6 硬直した制度、対応(同 10 件)

制度上の問題等により、困難が発生したことが確認できる意見があった。

- ・スクールカウンセラーに相談はするが、本人や保護者の話を聞くだけで、学校との調整等はできないとのことだった。学校長の理解や支援が全く得られず、スクールソーシャルワーカーへの相談も検討したが、学校から依頼がないと利用できないと言われた。
- ・相談者との相性もあるので、スクールカウンセラーは一番近くて利用しやすいように見えて、来校も年 1-2 回と少なく、利用しづらかった。
- ・学校のスクールカウンセラーは毎年変わってしまうので同じ方の方が子供にとっては安心できると思います。また、カウンセラーと毎年ゼロから信頼関係を作っていくのも大変なことだと思います。
- ・市の相談機関に連絡したが、たらい回しで対応が悪かった。二度と相談したくない。

3-7 支援者、機関間の連携不足(同 2 件)

支援者、支援機関間の連携不足により、保護者、子どもの混乱が生じる場合があることが分かる意見があった。

- ・教育委員会と各部署の連携が取れておらず、それぞれに同じ内容説明をせねばならないこと。SSW は教育委員会からの情報はあがるが、こども未来課からは共有がなく、ケース会議にも呼ばれないということで、当事者である家庭から SSW には進捗や説明などをしなければならぬこと。
- ・不登校に関して、各機関が敵対視しているようなところもあり、とても協力とは言えない状況だった。「あそこに行けば、そこが居場所と感じ学校に来なくなる」など言ったり、まず、教育の現場が周囲の機関を受け入れていくべきだと強く感じた。

3-8 相談・支援機関利用のハードル(同 10 件)

相談・支援機関の利用に至るまでに、手続きが煩雑であることが保護者、子どもの負担となっていることが分かる意見があった。また、支援機関がどのようなものか分からないことが、利用の妨げにもなっていることが分かる意見もあった。

- ・ 適応教室を利用する手続きが、毎年4月に面談予約→面談→体験通級3回以上→面談→学校へ書類提出の一連の流れをしなければ利用できず、面倒である。継続でも新規でも同じ手続きで毎年更新しなければならず、最短でも10日～2週間はかかるので、仕事も度々休んで負担である。
- ・ スクールカウンセラーさんに相談する時は、学校を通さないといけないので、面倒。先ず、学校が嫌いなので、ハードルが高すぎる。
- ・ 総合療育センター、総合教育センターがどんな機関なのかそもそもわかりにくい。総合療育センターに発達面、学習面両方で困っていることを伝えると管轄外と言われた為どこにどのような相談をすれば良いのか困ったことがある。
- ・ 相談機関といえども子供にとっては未知の世界で、人と会うのを拒否する時にそこにつなげるのが、すごく大変だった。SCにしても、入学してからどんな人かも知らない、男性なのか？等色々ハードル高かった。
- ・ 学校に行けなくなっている子どもには新しい環境に1歩踏み出すのが時間もかかります。もう少し柔軟に利用できるシステム作りをして欲しいと思いました。

3-9 保護者支援の少なさ（同1件）

- ・ 子供の居場所も必要だが、親の理解者も必要じゃないかと思う。

3-10 場に赴く困難（同6件）

支援の場に対して、赴くことへの困難があることが分かる意見があった。訪問による支援の要望もあった。

- ・ 小学生には、支援機関についてどのようなもの（所）かを理解するのは難しいのではないのでしょうか？また、心身共に弱っている時に、学校ではない新たな場所へ移ることはとても難しいと思います
- ・ 子の元気がない時に、そういう場所へは行くのがなかなか難しかった。また、合う、合わないもあり、（人や環境に）親子で迷走して疲れ果ててしまいました。
- ・ 全て出向かなければならないこと。そもそも家から出ることを怖がるので相談できなかった

- ・ 連れて行くことが大変、行きたがらないから訪問があれば一番良いです。

- ・ カウンセラーの方との話をする事ができなかった。病院なら行ける。

3-11 金銭的負担（同4件）

支援の利用に際して発生する金銭的負担が、困りごととなっている意見が確認できた。支援機関の利用料のみならず、物資、学用品、交通費、引っ越しなど様々な出費に加え、仕事への影響から、収入が減るなど、家計への負担は増加する。

- ・ 子供が低学年だと、1人での留守番が出来ない為、預け先の確保が困難だった。（利用料がかかる、子供が他者との関わりが苦手）そのため、仕事を辞めたり、働き方の制限があり家計も苦しくなる。
- ・ フリースクールは、子どもにとって良いが、学費が高いので諦めて公立に通い、結果不登校になる友達が多すぎる。ボランティア等や物資の提供、学用品の購入経費などもあり、引っ越しなど含めてかなりお金がかかった。いざという時にお金が使えてよかったが、もう学資貯金が尽きた。
- ・ フリースクールの見学、相談にも行きましたが、本人が望んでも費用が高額で経済的に利用できません。子供が不登校になり、親は仕事を制限しないといけなくなり、学校へは復学するかもしれないと教材費や校納金を払い、自宅で過ごしているので食費や光熱費もかかり家計も厳しい状況になります。
- ・ 授業内容の分からない科目は、親が仕事を休んで家庭教師代わりをしたので、家庭の収入も減った。支援機関利用にも費用が掛かりすぎる。

3-12 子どもの居場所（同3件）

子どもの居場所を確保するための苦労が分かる意見が確認された。選択肢の少なさに加え、教員から、学校外の居場所と学校の選択を迫られたエピソードが語られている。

- ・ ひとり親家庭です。就労中、低学年の子供が一人留守番するのは危険です。子供の居場所確保に難航しました。今も仕事を辞めざるを得ないと感じています。
- ・ 相談機関や不登校中の子供の居場所が少なく、子供の選択肢が少ない。

- ・子供に対しても、「学校と、〇〇、どちらが大事か分かるよね？」と教員が子供へ言った。大事な居場所をその様に言う先生には子供も残念だったようである。不登校に関しての研修はないのか、無知なのかと思うくらいである。

4 はざまの苦しみ（同2件）

学校、病院、支援機関などと板挟みになる場合、子どもの苦しみ、親の苦しみ、家庭の苦しみと様々な困難の中、バランスを保つことに苦心していることが分かる意見が確認できた。

- ・高校生だが義務教育ではないので、学校側からは出席日数&単位がと言われ、病院側からはなぜ学校へ行けないのか理由を探るのに時間は必要と言われ、両者に挟まれてどうしたらよいのか分からない。高卒はとって欲しいため通信なども考えているが、それだと病院側がいう学校へ行けない理由が分からないままになってしまう。本人の体調に合わせての学校への送迎、病院受診などで仕事への影響も大きい。仕事を辞めると世帯収入が減り病院受診も難しくなる。八方塞がりのような感じがあり途方に暮れる日々です。
- ・放デイに繋がるにも時間がかかり、頼れる身内も居ないので児童クラブしか子供を預けられる所がなかった。学校に行けないと児童クラブにも行けないので子供は家にいるしかなく、仕事にも行けず収入は減るのに給食の恩恵にも預かれず家計が逼迫。親は息抜きも出来ず子供は学校からの連絡で罪悪感を感じて、親子共に精神的に追い詰められた。

5 不安（同5件）

これまで確認してきた内容に加え、不安や苦しみとの向き合いから生じた思いについて、エピソードとともに語られている。

- ・子供が体調悪く、日中に活動できなかったり、予約してもその時間に動けなかったりしたので、どこに相談すればいいかわからなかった。学校へ相談したが、スクールカウンセラーを案内されたが、他の生徒がいる中、保護者の自分さえ行く勇気がでなかった。不安しかなく、八方塞がりだと感じてしまっていました。
- ・子供が学校に行けなくなった事で、親としても不安で押しつぶされそうな日々を過ごしていました。
- ・「話をするだけでも楽になる」というような時期は過ぎてしまったため、（解決しないのであきらめている）外に連れ出すことのできるレベルならまだ救いがあると思う。何の手立てもなく、ただ時だけが過ぎている感じ。
- ・担任の先生次第で、いろいろな情報を提供してくださるなど対応が違い、まわりに同じ環境

の親御さんがいるとは思いますが情報を話し合う機会もなく、どう進めばいいか分からず生きて
いるだけで申し訳ないような気持ちにまでなることもあった。

- ・毎日を親も子も必死に生きている。ギリギリのところまで踏みとどまっている。母親は自分の事は後回しで、現状をどう変えられるか？他に方法はないのか？将来はどうなるのか？進学できるのか？自立できるのか？親亡き後はどうなるのか？心配はつきず、出口の見えないトンネルの中でもがき苦しんでいます。なかなか身近に同じ境遇の方もいないので、（居たとしても、なかなか周囲に話さないで）一人で、家族で耐えている現状だと思います。

6 分からない（同3件）

これまで確認したことは、何に困っているかを、本人、保護者が理解しているケースであった。しかし、困りごとを言語化できないことや、何に困っているかが分からないケースもある。

- ・子供自身も不安定で、何が正しいのか、何が不安なのかもわからない様子で、その時に学校や相談機関や誰に相談したらいいのか、わからないようでした。
- ・対応が分からなかった。
- ・子供がどう思っているか分からない

7 その他

これまで確認してきた困りごとの他に、保護者の心身の問題や、低学年支援の少なさといったケースがある。また、支援者とより身近な関係性を築くための機会の必要性が語られた。

- ・私自身、鬱があり、知らない方と話をする事がきつかったです。
- ・低学年で困っている事案が少ないからなのか、全体的にあまり参考にできる解決策がない。
高学年から中学生向けの支援が多い気がする
- ・学校からは、スクールカウンセラー等の紹介もしてくださり丁寧に対応いただいていたが、子供が、知らない人と話をするのが嫌だと強く拒否した事もあり、利用できなかった。普段の学校生活において、スクールカウンセラーの先生方の話を聞く機会があるなど、先生の顔を知っているだけでも子供の安心感は違ってくるのではないかと思う。各機関についても同

様であり、子供は未知の場所や人に対して恐怖感を抱きやすいため、全体集会等を利用し、各機関の方からの施設紹介や講話があるだけでも利用度は違ったものになるのではと思っています。

2.6.3. 子どもが学校に行けなくなったきっかけ（自由記述）について

問6-2「お子様が学校に行けなくなった（行かなくなった）きっかけとなった出来事など」に対する自由記述欄に記入された内容を確認する。本調査における保護者用調査票には、学校、県に望むことなどの記入欄を設けていなかったが、本設問の自由記述からは、教育機関の対応への不満、不信感、要望などの思いが確認できた。本節では、1 長期欠席の要因、2 長期欠席により発生した思い、3 支援への希望、4 調査への思い、5 その他に分けて記述内容を確認する。また、同様の記述は、(同○件)と記載する。特徴的な記述には下線を入れている。

1 長期欠席の要因

以下に、長期欠席の要因として、心身の不調、家庭内の要因、学校に起因する要因に分けて確認していく。

1-1 心身の不調(同 14 件)

病気等を要因とする回答には、きっかけとなる病気の回復後も学校に行きにくくなり、長期欠席となるケースがある。

- ・天気痛も酷く、欠席が増え、益々悪循環に陥った。
- ・病気で長期入院をしていた為、生活環境の変化や、体調、体力の低下もあり、登校したくとも、出来ない状況になってしまいました(同 2 件)。
- ・生理が始まり、心身ともに不安定になった(同 2 件)。
- ・病気（起立性調整障害）に対する理解を子供から得にくく、「なまけている。」「さぼっている」と言われた。(起立性調整障害を理由とする回答 4 件)
- ・コロナ発症の3ヶ月後に喘息、吐き気などの症状でいくつか病院に行き、学校に行くと吐き気でトイレから出られなくなり、「コロナ後遺症」と診断され、漢方治療を続けています。
(コロナを理由とする回答 5 件)

1-2 家庭内の要因

1-2-1 きょうだいの長期欠席(同5件)

きょうだいの長期欠席が、長期欠席の要因となるケースがある。家庭内におけるきょうだいの影響の大きさを物語る回答が語られた。

- ・兄弟が多く上の兄が中学生の時にいろいろあり、学校に行けなくなり、そこから一緒になって行かなくなることが多く、中学生になってからもほとんど学校に行けなくなっていました。
- ・上の子が不登校になり、その様子をみていた下の子が学校は嫌な怖いところだと感じたこと、保育園の時に上の子たちから意地悪をされたこと、先生たちの怒鳴り声が頻繁になった事などで、外の世界の環境が嫌になり、集団が怖くなってしまう、保育園にもいけなくなり、そのまま小学校も行かなかった。
- ・白閉症の兄が、保健室登校で宿題なし。兄を見ていて「なんで私だけ帰って来てから宿題しないといけないの？何で学校に行かないといけないの」と言うようになり、朝に「お腹痛い」「行きたくない」と言い出し、私も無理やり学校に行かせていたので苦痛になった。

長期欠席のきょうだいの影響が、負の効果を生んでいるケースが語られた。きょうだい別室登校で、その際の待遇から不公平感を感じ、家庭内に影響するケースがある。

1-2-2 家庭内の虐待(同2件)

- ・父親が兄に対して殴る蹴るなどの暴力を行うことによる精神的虐待

1-3 学校に起因する要因

学校において長期欠席となる要因として、物的、人的環境の負荷、対物トラブル、教師との関係などがある。また、学校生活において行う行為である給食、体育活動、トイレが負荷となり、不登校につながったケースが複数確認できた。

1-3-1 物的環境の負荷(同2件)

子どもが長い時間を過ごす学校における物的環境は、心身に影響を与える。教室の空調、通学バスといった要因が長期欠席をもたらしている。

- ・暑い日の空調設備の整っていない教室で、体調不良が続き、体に負担がかかり、登校する事が難しくなった。

- ・通学バスの中の環境に慣れず、バスに乗ることが出来なくなった。

1-3-2 人的環境の負荷（同 11 件）

人的環境として、集団生活への適応、人への依存が負荷となるケースがある。

- ・集団や人混みが苦手(同 3 件)
- ・学校内での生徒の奇声や叫び声、それに対応する先生方の怒声や説教などが本人に心理的ストレスを感じる雰囲気があり、体調を崩してしまいました。(同 3 件)

学校における集団生活自体が負荷となるケースである。集団生活の中では、様々な特性を持った人との関わりがある。大きな声が飛び交う空間がストレスとなったとの語りがある。また、学校での役割や頼られることが負荷となる場合がある。

- ・責任感の強い子であるため、学校での活動（生徒会など）など、断ることが出来ず、不安や友達からの嫌がらせで精神的に疲れてしまい、学校に行けなくなってしまった。
- ・友人がリストカットを何度も繰り返していて、娘はそれを何度も止めていた。その友人はかまってくなくて本気でやっている訳ではないからと先生方も気付いてはいたけれど止めていなかったそう。「生死がかかる状況に心が壊れそう」と涙ながらに娘から話を聞き、登校することを止めました。
- ・学校の空き教室にいてもいいと言われるが、同じような状況で空き教室を利用している子に話しかけられるのもストレス。
- ・うるさかったり、人の事ばかり悪く言う子がいて、気が弱いうちの子は怖くて行けなくなった。神経症的になっているので、大丈夫だと言ってももはやもう無理。
- ・信頼していた SSW が移動となり、学校に味方がいなくなり、不登校→転校となりました。本人も、その SSW の先生がいれば学校に行けていたと話していました。

1-3-3 対物トラブル(同 2 件)

- ・自分の不注意で学校の物を壊してしまった。

1-3-4 教師との関係(同 12 件)

子どもにとって教師との関係は、学校生活に大きな影響を与える。教師からパワーハラスメント

を受けていると感じたことが、長期欠席に結びついている。また、心身の不調に次ぐ回答数であった。

- ・ 答えがわからないとその場に立たされるなどの不適切行為。民間企業なら完全にパワハラであるような人権侵害が横行している学校など行く価値がないと親子で判断した。
- ・ 担任が怖くて、話しかけられることが恐怖、また自分から話しかけにくい
- ・ 集団で繰り返し同じことを（挨拶の声がちいさいなど）怒鳴られ続けることへの恐怖

1-3-5 給食（同9件）

給食を理由として長期欠席となった主な理由として、不安、苦手、苦痛、上手く食べられない等がある。

- ・ 担任から食べ切ることを強要された。
- ・ 食べるのに時間がかかり、昼休みまで残り、クラスメイトに名指しで批判され続けていた。

1-3-6 体育活動

- ・ 運動会のリレーバトンパス練習や朝の校庭ランニングが本人の負担

1-3-7 トイレ（同4件）

トイレの不潔さ、トイレへの行きづらさが登校を阻害する要因となっている。また、漏らす行為がいじめを誘発したケースがある。

- ・ 男の子は特にトイレを使用する事に抵抗があるうえに、学校のトイレは不潔で臭いがひどく使用したくないといえます。また授業中にトイレに行きたくなっても、トイレに行きますと言いにくいらしく、休んで家にいた方が楽なのだと思います。
- ・ 小学生の頃に、自分のクラスの階のトイレが不潔すぎるからという理由で、別の階のトイレに行こうとしていたら、途中で我慢出来なくなり大便をもらしたという事があった。それを覚えていた子が中学校になってもからかってきたらしく、それ以来学校に行こうとすると、お腹を下したり、腹痛、頭痛、吐き気、めまいなどの症状がでて、登校の時間になってもトイレに長くこもり、出られなくなります。

ここまで、長期欠席となるきっかけとなった事からについて語られたことを確認してきた。ここ

からは、長期欠席により発生した思いとして、教育機関への不満、不信、新たな居場所、いじめへの思いなどに焦点を当て確認する。

2 長期欠席により発生した思い

長期欠席により、教育機関の対応へ様々な思いが発生する。また、子どもの将来への不安やいじめに対する憤りなど、長期欠席に至るまでだけでなく、その後についても語られた。

2-1 教育機関への不満、不信

長期欠席に至る事案の発生後、混乱や不安に対して、保護者、本人への寄り添いが必要となる。この項では、教育機関の対応の遅さ、不誠実さなどについて語られたことを確認する。

2-1-1 対応の不誠実さ（同3件）

相談時の真摯な対応、支援体制の脆弱さが、学校への不信感とつながっている。

- ・ クラス分けの希望を、無視、めんどくさいという態度に親子で絶望して。公立へは期待できず、フリースクールや私学を探しました。
- ・ 娘が不登校になった時、学校は全く相談相手になりませんでした。とにかく連れてきさえしてくれたらあとはこちらでなんとかしますから、としか言われませんでした。
- ・ 相談後、本人の状態が少し好転しても学校の管理職が変われば、担任が変われば、継続して支援していく体制がなく、専門職の方々も決めつけた言い方をされ（私が出会ったカウンセラーがそうだったのかもしれませんが…）がっかりしたのを忘れられません。"

2-1-2 教育委員会への不満、不信(同2件)

- ・ 精神科を受診し診断書を取りましたが、教育委員会は「この程度では転校は認められません」と言い、「私達には学校に対して何もできません」と突きつけられた。

2-1-3 情報提供の不足（同4件）

必要だった情報が提供されなかった憤りが語られた。必要な情報を、いつ、誰が提供するのか、どこで得ることが出来るか、情報提供に関する課題があることがわかる。

- ・ 適応指導教室、スクールカウンセラー、支援クラスへの移行、フリースクール、放課後等デイサービスの存在、療育機関など、1つも学校から案内されたことはありません。全て自分

で調べました。

- ・ フリースクール等の相談機関の紹介もなく、最近になって市営のフリースクールがあると知り、どこまで馬鹿にするのだと、行政への怒りもあります。
- ・ いじめで学校に行けなくなっているのに、不登校児が行ける所、利用できるもの、相談できる所を（スクールカウンセラー以外）何も教えてくれなかった。
- ・ いじめで学校に行けなくなった子供が、どうしたらいいか、どこが利用できるか教えてくれなかった。

2-2 子どもの将来への不安

- ・ 進級にあわせて、前よりも学校に行く事が少なくなっています。進んだり、後退したりと、不安がいっぱいです。

2-3 新たな居場所（同3件）

学校以外の居場所を見つけた記述では、新たな場に対する感謝が語られている。また、自ら居場所となる場を立ち上げたケースもあった。

- ・ オルタナティブ教育を行う学校を選択し、仲間と楽しく学校生活を送っています。新たな居場所で子どもはとても生き活きしています。「自分の出来る事」を見つけて仲間たちと成長しています。でも経済的には家族がたくさん負担しています。
- ・ 行かなくなったが、遠足での友達とのやりとりをきっかけに、週に1回自分で決めた日に登校しています。引きこもりはいつさいなく行事等は参加の意思があり、今の状態が落ちついて生活できる様子なので見守っています。適応指導教室の先生と友達がとても良い影響を与えてくれていると感じます。
- ・ 学年が上がってくると友達のいなくなり、活動内容も幼く感じるようになり、ほとんど行かなくなってきたので家にいる時間が増え、同世代の子供達とのコミュニケーションの機会が減ることが心配で、学校へ行かない子供達の居場所を立ち上げました。週1回ですが毎回10人～13人の子供達が来ています。素人の一保護者がそのような活動を立ち上げなければならぬほど、とにかく鹿児島は学校と家以外の居場所の選択肢がとても少ないです。

2-4 教育機関などへの思い (同5件)

不登校に対する支援に対する感謝や、教員の置かれる現状を慮る記述などから、学校、教員に対して、複雑な思いが伺える。

- ・最近の不登校の増え方の原因はそれぞれでしょうが「先生も、子供も苦しそう」と感じました。終身雇用制が崩壊したのに、相変わらずより偏差値の高い出口（大学）に合格させようとする高校、それに連なる中学校、小学校。出口が変わらないと、それに連なる教育も変わらない。
- ・相談機関・支援機関を利用したらいじめはなくなりますか？学校は協力しますか？死んでから動いても意味がない。

上記に加え、SSW について、支援への感謝、重要性についての記述が確認できた(同3件)。

2-5 いじめへの思い(同4件)

いじめに対して、加害児童の処遇と被害児童のその後の苦難について語られた。

- ・いじめは、学校に相談しても何も解決にもなりません。
- ・何故被害者が辛い思いをしなければならないのか。加害者側は今も普通に登校していることに対して疑問や、憎しみすら抱いてしまいます。
- ・いじめ被害者はなぜ、学校に行けなくなるんですか？子どもが勉強もまともに来てない。学校行事も参加できない。
- ・自分達で情報を集め、子のケアを優先させましたが、未だ私達家族は苦しいままです。夫は倒れ、今は私の働きのみで家計を支えています。また転校するために大金を出して住宅の購入、引っ越しなど、課題も山積みです。子供の「学校へ行きたい。だけど今の学校には絶対に行きたくない。」という気持ちを尊重し、住民票を移すことで現在は学校に行けていますが、何故被害者がここまで辛い思いをしなければならないのか。加害者側は今も普通に登校していることに対して疑問や、憎しみすら抱いてしまいます。

いじめ被害は、本人だけでなく家庭に多大な負担を強いる。いじめ被害により、本人の苦しみ、家族の苦しみがある中、いじめ加害者の生活がかわらないことへの怒りが語られた。

3 支援への希望

長期欠席の児童生徒への支援の希望として、居場所への希望、制度への要望、保護者支援などが語られた。また、支援の拡充や、安心できるかかわりを望む記述も確認できた。加えて、支えへの感謝や自ら支援施設を立ち上げたとの記述もあった。

3-1 居場所への希望（同4件）

校内における居場所、学校外における居場所の希望がある。校内においては、保健室や空き教室があるものの、長時間過ごすことへの心理的抵抗感や周囲の目があり、居づらくなるとの回答があった。

- ・教室以外に居場所が無く、学校に行きたくても教室に入れなければ不登校にならざるを得ないという子たちもたくさんいます。学校に行けないと学習の機会が本当になくなってしまいます。今、下の子が通う小学校で校内フリースクールを作ろうと校長先生とPTA役員のみなさんと話を進めているところです。
- ・教室は行きたくないが教室以外で過ごせる場所がない。保健室は長時間過ごす嫌な顔をされたり戻るよう促されたりすると聞いた。別室登校を保護者の方からお願いして12月から始めさせてもらったが、別室に行っても教室に戻るよう促されたりする
- ・施設を作ってください。学校の中にも教室以外の居場所を作ってください。子どもがどこの場所を選んで同じように学べる環境を作ってください。そしてこれらの事をもっともっとスピード感を持ってやってください。
- ・学校にソファやゆっくりできる空間があってもいいと思います。自由に出入りできる。学校＝安心。その空間ができればいいのにとおもいます。空教室は沢山あるのに、たまに学校に行っても暗い部屋に入れられる。大人でも行きたくない。もっと本当に生の声を聞いてほしい。助けてほしい。親も子も毎日たたかいです。当たり前の日常が遅れると思っていましたから。私達は決して弱い訳でない。もっとやりたい事もある。不登校の言葉で片づけないで、きちんと見て欲しい。

教室以外の居場所を求める語りが確認できた。教室は行きたくないが教室以外で過ごせる場所がないため、長期欠席の継続につながる場合がある。また、保健室や空き教室が一時的な居場所となりうるが、長時間過ごす嫌な顔をされたり戻るよう促されたり、別室に行っても教室に戻るよう促されたりといった支援における硬直などが、長期欠席を促すことにつながる。

3-2 家から出る機会（同1件）

居場所があることが、家から出る機会へとつながっていく。学習の前にあるものとしての、登校のしやすさ、後押しを求める語りである。

- ・欠席が続いたあと、久しぶりに登校すると、教科担任から宿題の提出を求められる。家庭としては宿題より学校（教室）が、居場所になるような支援をお願いしたい。宿題や勉強はそのあとでもできる。家から出る機会を失くさないで欲しい。

3-3 子どもへの理解（同2件）

子どもの状況への理解が進むことへの要望が語られた。学校に行きたいのに行けない、子どもへの理解や、不登校、行き渋りに対する偏見の解消が望まれている。

- ・現在の小中学校は義務教育にも関わらず、学校に行きたいのに行けない、このような子は授業を受けていないのに、受けなかった授業は補習もなく、そのままにされています。好きで行かない訳ではない子もいるという事を理解して頂きたいです。

- ・息子は学校に行きたい気持ちが大きいですが、不安などからなかなか行けずにいました。学校以外の居場所もすごく有難い所でしたが、学校からの理解、工夫、支援も、もう少しあればいいなどと思っています。（学校も、一部の先生方は理解していますが、まだまだ不登校、行き渋りに対する偏見がある気がします）

3-4 制度への要望（同6件）

子どもの学びの機会を確保するために、現在の制度上の運営に加え、柔軟な対応、時代の変化にあった対応を求める声が語られた。またフリースクール代の助成への希望もあった。

- ・いじめや小学校と中学校の雰囲気の変化等で登校できなくなり、親子でものすごく大変な時期を過ごしました。学校側も親身になってくださいましたが、転校も含めた相談の際、教育委員会と、行政は「市町村をまたいだ転校はできない」の一点張りでした。相談しましたが、受け入れてもらえず、住所変更せざるを得ませんでした。少しでも子供が登校しやすいように毎日、今も模索しています。行政も、ルールだからと頑なにならず、様々なニーズに対応していくべきだと思います。子供が「行きたい」と思う学校に行けるように柔軟な対応をお願いします。

- ・長女の行き渋りが始まった9年前、相談場所にいくつか関わりました。放課後デイは辛い時期本当に支えて頂きましたが、根本的な解決にはなりませんでした。その他の場所もそうです。根本が改善されなければ、これからも学校に行けない、行かない選択をする子は増え続けていくと思います。
- ・子どもたちは、日々成長しており、早急な居場所の確保や保護者の負担軽減などの対策が必要です。子供が不登校になるということは、心理的、社会的な負担が増えるばかりではなく、日中子どもを1人にするのができないため、仕事に行けなくなり、経済的にも大きな負担を背負うことになります。学校の先生の何気ない言動で、学校に行けなくなったり、お友達のいじめなどで行けなくなった場合でも、担任の先生やお友達のご両親が、不登校の子どもの家庭の経済的な支援をしてくれる訳ではありません。時代の変化にあった対応が早急にされることを願っております。"
- ・子供がいじめのPTSDが落ち着くまで、利用できる施設が見つかるまで、仕事も休職し収入も減った。身も心も本当に親子共々大変だった。死んだ方が楽になるかな…とまで思った。そんな中やっとな思いで見つけた放課後等デイサービスに通えるようになり、親子共々居場所が見つかり楽しく通えるようになった。PTSDも落ち着き笑顔も増えた。いじめで不登校になった子供にも受けられるはずだった勉強や様々な経験ができる学校行事を学校に普通に登校できている児童と同じようにほしい。
- ・高校受験も不登校を理由に不合格にされると、人生のリベンジは出来ないのかなと思わされてしまいます。生きていたらどの時点でもリベンジが出来ると思える学びの環境作りをお願いします。

3-5 保護者支援（同2件）

保護者の負担を軽減させるような支援として、保護者を対象とした勉強会や居場所づくりへの希望が確認できた。

- ・我が子は発達特性がありますが、運良く早い段階で見つける事が出来ました。親や先生に、特性の知識がないと、子供は必要以上に苦しむことになります。親への勉強会などを学校や地域で行うことにより、理解が広がると思います。
- ・授業中に配付した新しいワークや教材はもらっていないこともあり、あとで知る。毎朝の欠席連絡も忘れそうになるが、忘れないようにタイマーにして学校へメール連絡。保護者同士で悩みを共有する職場にも上司のみに知らせており、孤独。保護者と学校の間に入ってどういう支援が必要なのか個別にコーディネートしてくれる機関（人）があればいいのと思

う。保護者の負担は重い。保護者の居場所作りをしてくれる支援にも期待したいです。

3-6 支援の拡充(同2件)

具体的な支援として、他県の実践で参考になることを県にも落とし込むことへの希望が語られた。保護者は、自主的に様々な取り組みを調べており、新たな場を自ら立ち上げるケースもある。そのため、県にない支援、他県にある支援について具体例をもった提案があった。

- ・子どもが自主的及び自発的な活動ができる拠点、子供たちのためのオンライン用の授業、校内フリースクールなど他県では様々な取り組みがあります。他県の自治体が行っている事を調べて、見に行き、良いと思うことはどんどん鹿児島に落とし込んでください。それができるのは行政の方たちだけです。
- ・希望者には、適応教室でオンライン授業など受けられたら、離れていてもみんなと一緒に授業が受けられると思います。

3-7 柔軟な支援(同2件)

制度上の硬直のみならず、個別性に配慮した支援を求める声が具体例とともに語られた。

- ・聴覚での情報が入りにくい。失感情症的。小学校一年生から大丈夫ですか？と聞き続けていたにも関わらず、大丈夫ですよとしか言われず、そこから先に(放デイ、通級など)進めず、結果、4年になって、過剰適応が崩壊して不登校になっている。福祉(通級など)につなげてほしかった。
- ・子供の事で医療機関、カウンセリングを受けてきましたが、しっくりくるものがありませんでした。SNSで発信されている不登校の子を持つ母親向けに子供の心の声の聴き方を学び、塞ぎ込んでいた子供がどんどん元気になっていきました。私の考え方も変わり、今の子供を受け入れ、私も穏やかに過ごせるようになりました。子供との関わり方、心の声の聴き方をもっと具体的に伝えてくれたらいいのかなと思いました。

3-8 安心できる関わり(同4件)

安心できる関わりとして、子どもの個別性への配慮、子どもの状況に合わせるスピード感の調整、チームとしての支援などが望まれることが確認された。

- ・学校に行けなくなったころ、当時の担任から「頑張って登校するように」「精神的なことも自己管理、そこもちゃんとするように」「友達と上手いかなければ夏休みまでに新しい友達をつくって夏休みに遊べばいい」と言われ、無理やり学校に行こうとし、あと少しで学校

というところで、過呼吸をおこし、そこから完全に学校に行けなくなりました。現在は、今の担任と校長先生のおかげで少しずつ登校できるようになりホッとしています。担任の関わりはとても大事になると思います。すごく大変な仕事だと分かっておりますが、その一言で人生が変わることも知っていただきたいです。

- ・2軒ほどフリースクールに見学に行きましたが子供が行きたいと思える場所には出会えず、経済的にも厳しい、母子分離不安もあったので最終的に友人に教えてもらい放課後デイサービスに繋がり、親子で大変支えて頂きました。
- ・誰でもいつでも行ける場所があって、学校に行けなくても、そこに行く事が当たり前認められる環境が最初からあれば、自分を否定して引きこもる必要がなくなります。生きる事に絶望しなくても済むんです。安心の中でしか意欲は育まれません。
- ・子供はあっという間に成長します。子どもの1年と大人の1年は全然違います。私たちがのらりくらりしている間に何のサポートも得られぬまますぐに大人になってしまうんです。この調査の結果を受けて色々な支援の対策が進められていくんだと思いますが、その際に色々な専門家や当事者（子供も大人も）、フリースクール運営者などの支援者も入れて話し合いを進めて頂きたいです。

3-9 支えへの感謝(同3件)

教育機関などの支援への感謝は、不信、不満がある場合にも確認された。

- ・親は本当に孤独です（もちろん子供も）。親をサポートし、親が気持ちにゆとりが持てると子供も安心します。私は療育センター、SC、SSW、総合教育センター、支援学校の先生方などに支えられました。

4 調査への思い

今回の調査自体に関する感謝、疑問、要望として語られたことを確認する。アンケートにより、思いを伝える機会を得られたことに対する感謝、アンケートの有効性への疑問などが主な内容である。また、本調査にとどまらず、さらなる実態調査を行うことへの希望が確認できた。

4-1 調査への感謝(同2件)

- ・アンケートだけでは、伝えきれない思いも色々ありますが、まずは、県がアンケートを初めて実施して下さったことに、御礼申し上げます。今度とも当事者の声に耳を傾けてくださ